

事業概況



あすかアニマルヘルス

得意領域において
No.1を目指してあすかアニマルヘルス株式会社
代表取締役社長

山口 文豊



あすかアニマルヘルスは「動物の健康と食の安全を守ることにより、人と動物が共生できる社会づくりに貢献します。」を経営理念とし、「畜水産領域の繁殖・免疫と栄養に強みを持ち、コンパニオンアニマルの健康を支える唯一無二の企業になる」という経営ビジョン掲げて事業を開拓しています。近年は気候変動や世界的な人口増加に加え、国際情勢不安など、世界的な課題に直面しています。こうした環境変化のなかで、日本は昨年、「農政の憲法」とも呼ばれる食料・農業・農村基本法が改正されるなど、国内の食料安全保障に対する意識が高まっています。また、高病原性鳥インフルエンザや豚熱は引き続き猛威を振るっており、アフリカ豚熱はアジアでは中国を中心

売上高の推移

2024年度売上高は、初めて70億円を突破する実績を達成することができました。前年度比においては108.7%となり、市場伸長率以上の伸びを示しています。分野別で見ると、畜産用医薬品については一部ホルモン製剤の価格改定による買い控えや豚熱発生などによる抗生素質製剤の売上減少により前年度比は若干下回りましたが、コンパニオンアニマル用医薬品・飼料添加物における新製品の大幅伸長により、全体を底上げすることができました。次年度以降も引き続き、畜産用医薬品・飼料添加物の売上を核としつつ、収益性の高いコンパニオンアニマル用医薬品に注力していきます。

あすかアニマルヘルス 売上高の推移



強み

主要な繁殖用ホルモン剤のラインナップによる畜産分野における高い市場プレゼンス

コンパニオンアニマル分野における潜在的なニーズを意識した製品の提供

飼料用アミノ酸のフルラインナップによる配合飼料の低たんぱく化への貢献

事業環境

市場環境

- ▶ 為替相場、世界的な物流費・資材費などの高騰による畜産物の生産コスト上昇
- ▶ 可処分所得の減少や生体価格・飼育コストの上昇によるコンパニオンアニマル新規飼育率の伸び悩み
- ▶ 環境問題への対応とサプライチェーンの不安定化および製品のコモディティ化

リスク

- ▶ 畜産農家、水産養殖業者の減少と製品需要への影響
- ▶ 持続的なコンパニオンアニマル飼育頭数の減少傾向
- ▶ 競争激化と安定供給への対応

犬および猫の飼育頭数の推移



- ▶ 繁殖効率の改善による畜産物の生産効率向上
- ▶ コンパニオンアニマルの長寿化による疾病増加と飼育関連支出増に対するオーナーの価格受容性の高まり
- ▶ 世界的な低たんぱく飼料に対する需要拡大

戦略

- ▶ 主力ホルモン剤および関連情報の提供により畜産物の生産効率向上を通じた企業価値およびエンゲージメント向上の推進
- ▶ 強みのある分野に特化した製品の開発・提供と収益基盤の強化

- ▶ 環境負荷物質排出低減への貢献(低たんぱく飼料普及による地球環境への窒素負荷軽減)

アニマルウェルフェアの実現に向けて

畜産分野においては、販売休止中であった抗生素質ナナフロシン外用剤である「ナナオマイシン油剤あすか」の早期出荷再開に向け全社を挙げ尽力しました。本製品は牛：皮膚糸状菌症の適応症を有する唯一の動物用医薬品です。本症に罹患すると病変部の搔痒ストレスによる増体低下や市場価値の低下といった経済的損失が発生するのはもちろん、人にも容易に感染することから公衆衛生上も重要な疾病となっており、早期の出荷再開を望む声をたくさんいただきました。「ナナオマイシン油剤あすか」の出荷再開により、生産性向上に寄与するとともに、牛におけるアニマルウェルフェアの改善に大きく貢献することができると確信しています。

供試牛(No. 1):13ヵ月齢の黒毛和種(雄)、体重400kg



塗布前の所見

眼瞼周辺、頸、頬に10cm程度とそれより異色病巣が散見される。



塗布後15日目の所見

病巣が乾燥し、発毛が見られる。



塗布後30日日の所見

かさぶたは完全に脱落し、発毛があり、周囲との区別はつかず治癒。

2024年度の取り組み

コンパニオンアニマル分野では犬：副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)に伴う諸症状の改善の効能・効果を持つトリロスタン「あすか」の普及に注力しました。

獣医師・愛玩動物看護師向けに学術動画を作成・配信するなど、啓発活動を強化しました。